

特集

維新の内乱と

「ラスト サムライ」



写真 函館市中央図書館所蔵「フランス軍士官と旧幕府脱走軍士官」(前列左から2人目 ジュール・ブリュネ、その右 松平太郎)
背景 中央大学図書館所蔵「榎本武揚の処分・外交問題の処理に関する草稿」(「明治初期名家書簡・草案集」所収)

CONTENTS

- 特集 維新の内乱と「ラスト サムライ」 宮内庁書陵部研究員・文学部兼任講師 宮間純一
- 図書館活用術 一学外からもデータベースを使えることを知っていますか?—
- 図書館長のオススメ
- 中央図書館消防訓練実施報告
- さようなら、テレリフト
- 新収資料紹介 中央大学教職員著作目録・資料目録(2014.11～2015.3 収集分)

宮間 純一 (宮内庁書陵部研究員・文学部兼任講師)

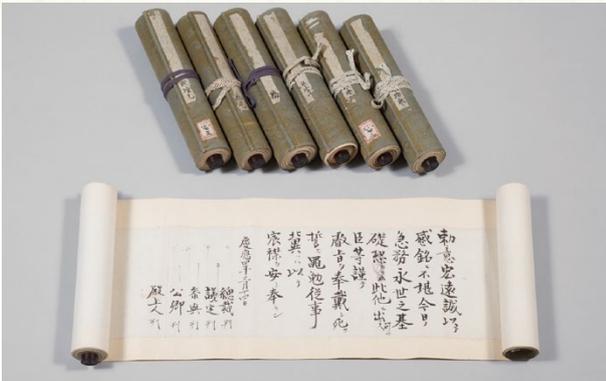


図1 明治初期名家書簡・草案集〔貴重書庫 K281.04/Me25〕
下：図2 五箇条誓文の誓詞草稿

中央大学図書館には、「明治初期名家書簡・草案集」と名付けられた卷子体の資料が所蔵されている (図1)。同資料は、古書店から購入されたもので、現在、図書館に収められている巻10・11・29・31・33・35・38の計7巻だけが売りに出されていた。これらの卷子には、幕末から明治期にかけての書簡や覚書・意見書の草稿類62点が貼り込まれている。古文書の中には、岩倉具視や三條実美、大原重徳といった明治維新史上の著名な人物がたびたび登場する。

平成9年 (1997) に購入されてから書庫で眠っていたこの資料に光を当てたのは、平成20年 (2008) から翌年にかけて調査を行った文学部の松尾正人先生を中心とした研究会であった。当時大学院生であった私もメンバーの一人である。手分けをして解読を進める中で、この7巻の古文書が幕末維新期の政治・制度に関する重要な情報を私たちにもたらしてくれる貴重な資料群であることが判明した。

たとえば、著名な出来事に関わるものとして「五箇条誓文の誓詞草稿」(図2)がある。よく知られているように、五箇条誓文は慶応4年 (1868) 3月14日に明治天皇が百官を率いて天神地祇 (天地の神々のこと) に誓うかたちで表明した新政府の基本方針である。図2の資料は、誓文・

勅語が読み上げられたのちに公卿・諸侯一人ひとりが署名した奉答書の草稿にあたる。三條実美が、案に加筆・修正した痕跡がみられ、実際のものとは異同が生じている。こうした草稿類には、完成した正本にはない検討の過程がみられ、時としてそれは歴史の真相を解明する有効な材料になりうる。

ほかにも、この資料群をひもとけば明治初年の太政官会議や明治天皇の東幸 (東京行幸) の関係書類などいくつもの興味深い文書に出会うことができる。その中で、私が特に関心を寄せたのは、巻38に所収されている「榎本武揚の処分・外交問題の処理に関する草稿」(図3)であった。この資料には、慶応4年の戊辰戦争で新政府に抗して江戸を脱走し、明治2年 (1869) 5月に箱館戦争で敗れた榎本武揚ら旧幕府軍首脳部の処分をめぐる議論が書き付けてある。当該資料からは、榎本らの処分が政府内で難航していたことがよくわかる。この一件は、従来十分な研究がなされておらず、私にとって新しい発見であった。ただし、資料中の登場人物で最も私の目を引いたのは榎本ではなく、フランス陸軍士官ジュール・ブリュネ Jules Brunet の名であった (表紙写真左から2番目の人物)。

ブリュネは、慶応3年 (1867) に幕府に軍事顧問として雇われて来日したフランス人士官の1人である。彼らは、慶応4年7月に新政府から正式に解雇を言い渡されたが、

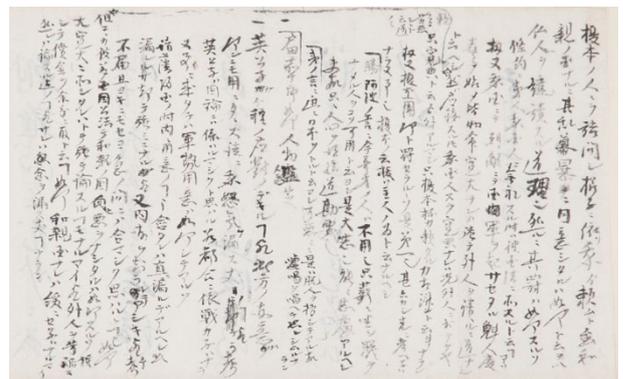


図3 榎本武揚の処分・外交問題の処理に関する草稿

ブリュネはじめ5名の士官はこれを無視して旧幕府軍に参加した。最終的には、若干名が加わり、合計10名程度のフランスの軍人たちが榎本軍に荷担することになる。これが、戦後日仏間に外交問題を引き起こすことになった。日本国内では、旧幕府と深い関係にあったフランスが榎本軍を支援し、日本の植民地化を目論んでいるのではないか、という疑念すら生じることになり、新政府はフランスに対して監理不行届責任を追求したのである。このため、榎本らの処遇の決定は明治5年（1872）まで遅れることになった。資料の中のブリュネは、日本にとっての脅威でありやっかいな存在でしかない。

ところが、そうではない見方も最近では存在する。ブリュネは、平成15年（2003）に公開されたハリウッド映画『ラストサムライ』（エドワード・ズウィック監督・脚本・製作、ジョン・ローガンほか脚本）の主演であるオールグレン（演：トム・クルーズ）のモチーフとなった人物だとされる。この映画は、明治10年（1877）に勃発した西南戦争を舞台として、日本の「武士道」なるものを描こうとする作品であった。だが、主演であるオールグレンのモデルがブリュネであるように、戊辰戦争・箱館戦争と西南戦争のイメージが入り交じっている。

渡辺謙が演ずる勝元^{かつもと}（勝元は西郷隆盛をモデルとする）率いる軍隊は、戦国時代さながらの武器・戦術をもって、天皇の近代的な洋式軍隊と真っ向から対峙し、滅ぼされていく。それは、「サムライ」の時代の終焉と、欧米の「文明」を受け入れて近代化を進めてゆく日本を象徴する内容であった。だが、この映画のクライマックスでみられる、^{ちよんまげ}丁髷を結び、甲冑を身に着け、弓矢や刀で無謀な「イクサ」を仕掛けるオールグレンを含む「サムライ」の姿は、

「史実」上の西南戦争時の西郷軍はもちろん、箱館戦争における榎本軍やブリュネともまったく一致しない。表紙の写真をみれば、榎本軍も洋式の軍装であったことが一目瞭然である。榎本軍は、下級の兵卒であっても箱館の民衆に「ザン

ギリ坊主」とあだ名される西洋式の軍隊であった。

映画全体は、現代のアメリカ人からみたジャポニズムとアメリカ先住民に対する意識（オールグレンが、勝元たちの行く末とネイティブ・アメリカンの虐殺をダブらせる場面が何度か登場する）を反映したものと見える。一方で、明治初期に日本国内で創られつつあった戊辰戦争・箱館戦争のイメージと合致する部分もある。『ラストサムライ』に見られる、旧時代の「サムライ」（オールグレン＝ブリュネを含む）が奮戦しながらも新しい「文明」に打ち砕かれてゆく図式は、明治初期に東京の人びとが抱いていた「維新の内乱」像といくつかの点で重なるのである。中央大学図書館に所蔵されている戊辰戦争・箱館戦争を題材とした錦絵3点からその一端をみてみよう。

「箱館大戦争之図」（図4）は、赤色の染料を多用した赤絵とよばれる種類の錦絵で、明治8年（1875）以前の作品である。開化絵・横浜絵を多数作成した永島猛斎の手になる。画中の騎乗の武士は、左から榎本釜二郎（武揚）、大鳥圭助（圭介）、松平太郎と記名がある。また右下には土方歳蔵（歳三）の姿もみえる。彼らは、いずれも旧幕府軍の幹部であり、「賊軍」のシンボルとして描かれている。この絵で注目されるのは、榎本軍と新政府軍のいで立ちである。松平太郎たちは、鎖帷子^{かたびら}や陣羽織を着用し、日本刀もしくは長鎗をもって洋式装備の新政府軍へ突撃している。松平らにより次々と新政府軍の兵士が、切り倒されており、旧時代の「サムライ」たちが「官軍」（新時代）に対して一矢報いる様子が描写される。

次は、「東叡山戦争之図」（図5）である。明治7年（1874）に刊行されたもので、四代目歌川豊国の作品として知られる。慶応4年5月15日に勃発した上野戦争をテーマにして



図4 箱館大戦争之図〔中央書庫 G721.8/U96〕



図5 東叡山戦争之図〔中央書庫 G721.8/U96〕

おり、彰義隊が立てこもった上野寛永寺が新政府軍によって攻撃される場面が描かれている。彰義隊は同日中に壊滅に追い込まれた。彰義隊の敗戦は、江戸市民をはじめ江戸周辺の人びとに徳川幕府の瓦解を印象づける出来事であった。画中の彰義隊は、和装で描かれており、新政府軍は皇室の紋章である菊花紋に似たデザインを施した旗とともに洋式の軍隊としてイメージされている。実際には、榎本軍と同じく彰義隊も刀と槍だけで戦ったわけではない。

3点目の「上野山内打入之図」(図6)は河鍋 暁 斎の作。明治8年刊行。これも上野戦争を題材にした錦絵であり、彰義隊を和装、新政府軍を洋装で表現している。

「東照宮」の旗を掲げながら数名を同時に相手取る大久保主膳(忠恕)、切り落とした敵の首を持ちながら戦う池田大隅(長裕)らの奮戦の様子が描写される。一方で、中央で白熊をかぶった「官軍」の将校とおぼしき人物が嬉々として彰義隊士を斬る場面が確認できる。また、銃剣で無惨に殺される彰義隊士が右下にはみえる。死を覚悟して奮戦するも、彰義隊がむなしく敗戦に向かう様が、臨場感をもって伝わってくる。

3点の錦絵は、東京で刊行され、民衆が手にとったものである。内容は、民衆に受け入れられやすいよう工夫されたイメージであり、冒頭でみた「明治初期名家書簡・草案集」のような一次資料の世界で確認できる「史実」とはかけ離れている。ただし、それだけに世相を反映した

民衆が抱く戊辰戦争・箱館戦争像を映し出しているともいえる。錦絵の世界に描かれる、天皇の軍隊＝「官軍」を相手取って奮戦し、最終的に敗れた徳川の「サムライ」たちに明治初期の人びとは何を託していたのだろうか。

以上、この小文では政治史上の重要な「史実」を証明する貴重な資料である「明治初期名家書簡・草案集」と、民衆がいだく「ラスト サムライ」像を描いた錦絵を紹介した。中央大学図書館に所蔵されるこれらの資料はそれぞれがかけがえのない資料であり、明治維新をさまざまな角度から捉える重要な研究材料なのである。

現在に生きる人びとがもつ「ラスト サムライ」像は、一次資料の世界に現れる人物たちと一致するのか、それともその後の社会で創造されたイメージなのか、図書館の資料から考えてみるのもいいかもしれない。



図6 上野山内打入之図〔中央書庫 G721.8/Ka96〕

参考文献

- 岡田新一ほか『函館の幕末・維新：フランス士官ブリュネのスケッチ100枚』(中央公論社、1988年)〔中央大型 211.8/B78〕
- 鈴木明『追跡：一枚の幕末写真・長編ノンフィクション』(集英社、1984年)〔中央書庫 210.59/Su96〕
- 鳴岩宗三『幕末日本とフランス外交：レオン・ロッシュの選択』(創元社、1997年)〔開架 210.59/N53〕
- 奈倉哲三編著『絵解き幕末諷刺画と天皇』(柏書房、2007年)〔中央書庫/日本史 721.8/N27〕
- 松尾正人編著『幕末・明治期名家書翰草稿—史料と研究—』(中央大学近代史研究会、2009年)〔中央書庫/開架 210.088/Ma85〕

図書館では、この特集にあわせて
『第23回中央大学図書館企画展示：維新の内乱と「ラスト サムライ」展』を開催します。
 この機会にぜひご覧ください。

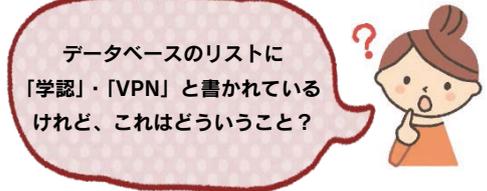
期 間：2015年10月25日(日)～11月28日(土)
場 所：中央図書館2階展示コーナー

図書館 活用術

学外からもデータベースを使えることを知っていますか？



図書館では、学習・研究活動に役立つ様々なデータベースを整備しています。データベースを活用することで、図書情報や雑誌記事、新聞記事の検索や電子ジャーナル、電子版の百科事典を利用することができます。これらのデータベースは図書館ホームページの「データベース検索」から利用することができます。



「学認」・「VPN」の表示があるデータベースは学外からも利用可能です！

1 学認を通じて利用する

■ 学認（学術認証フェデレーション）とは…
 大学等の機関と、電子化された情報サービスを提供する出版社などで構成された連合体のことです。連合体が定めた規程（ポリシー）を信頼しあうことで、相互に認証連携を実現することが可能となります。
 学認による認証連携に対応したデータベースであれば、自宅などの学外インターネット環境から、中央大学の統合認証 ID を使いシングルサインオンシステムを経由し、学内と同じように利用することができます。

- 対象者**
 学部生・大学院生（専門職を含む）・教職員
- 利用方法**
 データベースごとに利用方法が異なります。「データベース検索」画面の「学認」マークをクリックすると、「学術認証フェデレーション（学認）によるデータベース検索方法」(<http://www2.chuo-u.ac.jp/library/gakunin/gakunin.htm>)が表示されますので、利用したいデータベースの「ログイン方法」マニュアルに沿ってログインしてください。

検索例

1. データベースにアクセスし、ログインボタンを押す（ボタンの位置や表示はデータベースごとに異なります）
2. ログイン方法を選択する（Shibboleth 認証、Institution Login 等）
3. 国名（Japan、Japanese...GAKUNIN 等）と大学名（中央大学、Chuo University）を選択
4. 統合認証 ID とパスワードでログイン

2 SSL-VPN接続で利用する

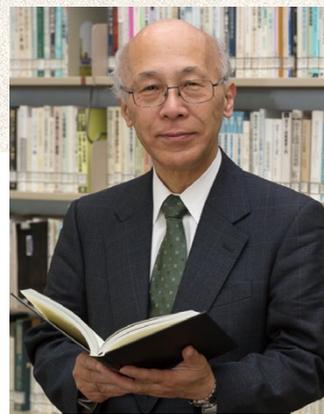
- 対象者**
 大学院生（専門職を含む）・教職員
- 利用方法**
 はじめて中央大学 SSL-VPN を使用してデータベース検索を行うには、ソフトウェア（AnyConnect）のインストールが必要です。
 接続設定方法については、下記 URL のマニュアルをご覧ください。
http://www2.chuo-u.ac.jp/library/ssl-vpn/ssl-vpn_manual.html

manaba を通じて自宅からも朝日新聞が読めます！
 朝日新聞のデータベース「聞蔵Ⅱ」「朝日新聞DIGITAL」を manaba から利用することができます。
 ログインすると、「聞蔵Ⅱ」「朝日新聞 DIGITAL」のボタンが表示されるので、ここからデータベースを利用してください。すでに manaba で認証しているので、あらためて ID・パスワードを入力する必要はありません。
 また、スマホからも利用できるため、通学途中にも朝日新聞を読むことができます。

図書館長のオススメ

幕末動乱に活躍した坂本龍馬のファンは多い。龍馬はいかなる変革をめざし、その思いはどこにあったのか。激動の時代をどのように切り抜け、薩摩と長州の連携、討幕に尽力したのだろうか。松浦玲著『坂本龍馬』は龍馬の書翰等を読み解き、実に興味ぶかい。龍馬の足跡を追うだけではなく、中岡慎太郎や木戸孝允に書き送った龍馬の書状を紹介。龍馬の行動とその活躍が明らかになる。

それにしても幕末の日本にあこがれ、横浜を訪れた外国人は少なくない。トロイア遺跡の発掘で有名なハインリッヒ・シュリーマンもその一人。『シュリーマン旅行記』によれば、横浜に上陸したシュリーマンは馬を借り、遊歩区域内の境界に位置した八王子を目指している。町田で一泊し、その翌日の慶応元年（1865）6月19日に八王子に到着した。当時の八王子の人口は約二万人。家々は木造二階建てで、耐火性の「練り土」の家は限られていたという。シュリーマンは八王子の多くの家に絹の手織機があり、絹織物の店に出していたと書いている。そして、渦巻き状に掘られた井戸に驚き、その工夫に感動したのであった。



図書館長
松尾 正人（文学部教授）



坂本龍馬

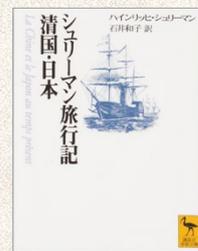
松浦玲著
岩波書店 2008（岩波新書）

所蔵 開架新書 岩波新書 / 新赤 -1159
理開小型 岩波新書

シュリーマン旅行記 清国・日本

H. シュリーマン著 石井和子訳
講談社 1998（講談社学術文庫）

所蔵 開架文庫 講談社学術文庫 /1325
理開小型 291.09/Sc4



※上記の2冊は中央図書館と理工学部分館で展示します。

中央図書館消防訓練を実施しました。（報告）

中央図書館では、2015年6月24日（水）9:30～10:15に図書館長を対策本部長とする消防訓練を実施しました。当日は、利用者の皆様にもご協力いただきありがとうございました。

第1部 避難訓練 9:30～9:58 対象：図書館職員、図書館利用者（約90名）

中央図書館内で火災が発生したと想定し、以下の訓練を行いました。

初期消火訓練（無放水）、通報連絡および館内放送、避難経路確保・利用者避難誘導、応急救護等の訓練

第2部 消火訓練 10:00～10:15（於 セントラルプラザ） 対象：図書館専任職員（22名）

消火器および消火栓の使用訓練を行いました。



消火栓使用訓練



さようなら、テレリフト



—中央図書館の図書搬送設備が生まれ変わりました!—

中央図書館では、夏季休業期間中に工事を行い、これまで中央閉架書庫で使用してきた図書搬送設備である「テレリフト」を撤去し、2階受付カウンターと書庫をつなぐ新図書搬送設備（小荷物運搬昇降機）を新たに設置しました。多摩キャンパス開校から35年以上が経過し、設備の老朽化と保守備品の生産中止等の事情により「テレリフト」は、その役割を終えることとなりましたが、学内者のみならず、ご父母や外部の見学者からも、常に注目される存在だった「テレリフト」がなくなってしまったことに、図書館員一同寂しい思いを抱いています。

「テレリフト」は、ダイフク（旧社名：大福機工）社が提供する軽量物搬送システムで、本学が駿河台キャンパスから多摩キャンパスに移転した1978年4月の中央図書館開館以来、書庫内各所および2階受付のあわせて9箇所のステーション間をレールでつなぎ、図書や閲覧請求票を搬送するための設備として稼働してきました。開館当時、図書館・病院向け物流システムとして本学のみならず他大学の図書館でも図書の運搬用として採用され、病院施設ではカルテや小物品を運ぶ設備として専門誌等でも紹介された最新の設備でした。これまでに書庫に入庫したことがある方には、書庫内全域に設置されたレール（全長約285m）上をトロツコに似た小型搬送機（45×45×15cm）が、水平、垂直、カーブと自在に走行する姿を思い出される方も多いのではないのでしょうか。

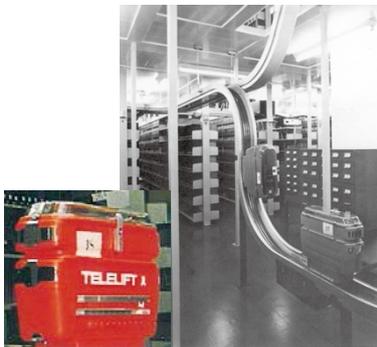
レール撤去後の空きスペースには書架を増設し、増え続ける資料を収蔵するスペースとして活用する予定です。資料の電子化は進んでいますが、中央大学が収集・保存する紙の資料がすぐなくなることはありません。図書館はこれからも、時代の流れに応じた館内設備の更新や適切な維持保全を行い、利用者の皆様によりよいサービスを提供できるよう努めてまいります。



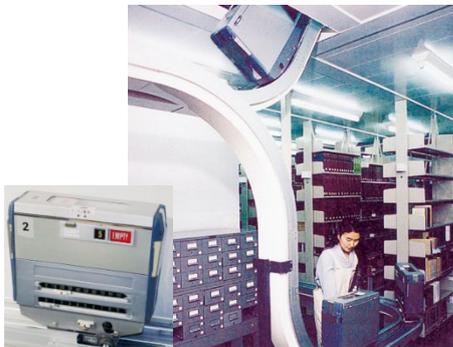
中大図書館で活躍する「ミニ二階建てバス」のテレリフト。リフトー八王子市内で



1979年4月17日付
朝日新聞朝刊記事



『中央大学図書館—1978.4開館—』
開館当初はオレンジ色の樹脂製の車体でした



『'94 中央大学図書館要覧』
1990年代はじめてから金属製の車体が登場



『図説中央大学1885→1985』（1985年刊）
図書館の顔として創立100周年記念誌にも掲載されました



第18回（2009年）中央大学ホームカミングデー見学会
テレリフトはいつも図書館見学の見せ場でした



2015年9月
新図書搬送設備を設置しました。
最大100kgの荷物を1分間45mの
速度で運搬できます。
カウンターの雰囲気も少し変わりました。

新収資料紹介

教職員著作目録 2014.11 - 2015.3 配架図書一覧 () は所属学部等

著者名		書名	出版社	出版年月	配架場所	請求記号
新井 誠(法)	編訳	信託制度のグローバルな展開：公益信託と公益信託助成基金講演録	日本評論社	2014.10	中央書庫 / 市ヶ谷法務	324.82/A62
安念 潤司(法務)ほか	編著	論点日本国憲法：憲法を学ぶための基礎知識 第2版	東京法令出版	2014.11	中央書庫 / 開架	323.14/A49
池田 和臣(文)	著	古筆資料の発掘と研究：残簡集録取りぬるを	青簡舎	2014.9	中央書庫 / 国文	728.21/I32
伊藤 成彦(名)	編著	歴史に生きるローザ・ルクセンブルク：東京・ベルリン・モスクワ・パリ：国際会議の記録	社会評論社	2014.9	中央書庫	309.334/I89
上野 清貴(商)	著	連結会計の基礎 第3版	中央経済社	2014.11	中央書庫 / 開架	336.92/U45
ベルトラン・マチュー 植野 妙美子(理), 兼頭 ゆみ子	著 訳	フランスの事後的違憲審査制	日本評論社	2015.2	中央書庫 / 市ヶ谷法務	327.935/Ma72
江口 匡太(商)	著	大人になって読む経済学の教科書：市場経済のしくみから考える	ミネルヴァ書房	2015.1	中央書庫 / 開架	331/E33
J・ミシュレ 大野 一道(名)	[著] 編訳	全体史の誕生：若き日の日記と書簡	藤原書店	2014.9	中央書庫	289/Mi13
J・ミシュレ 大野 一道(名)	[著] 訳	学生よ：一八四八年革命前夜の講義録 新版	藤原書店	2014.10	中央書庫	309.0235/Mi13
公文 俊平, 大橋 正和(総) 松野 良一(総)ほか	編著 執筆	情報社会のソーシャルデザイン(情報社会学概論 2)	NTT 出版	2014.12	開架	361/Ku39
小木曾 綾(法務)	著	衆文で学ぶ刑事訴訟法	法学書院	2015.1	中央書庫 / 開架	327.6/O25
奥田 安弘(法務), マルティン・シャウアー	編	中東欧地域における私法の根源と近年の変革(日本比較法研究所訳叢書 70)	中央大学出版部	2014.11	中央書庫 / 開架	324.93/O54
ツヴェタン・トドロフ 小野 潮(文)	[著] 訳	ゴヤ啓蒙の光の影で(叢書・ウニベルシタス 1012)	法政大学出版局	2014.9	中央書庫	723.36/G74/To18
川口 祐明(名)	著	この身誓らずは：歌集	なからみ書房	2014.9	中央書庫 / 開架	911.16/Ka92
川戸 道昭(理), 榎原 貴教	編著	資料集成近代日本語「形成と翻訳」第1巻～第4巻, 別巻	大空社	2014.11-12	理工	810.2/Sh89
木田 元(名), 竹内 敏晴	著	待つしかない、か。：身体と哲学をめぐる 新版	春風社	2014.10	中央書庫	104/Ki12
木田 元(名)	著	哲学散歩	文藝春秋	2014.10	開架 / 理開	104/Ki12
北村 敬子(商) 上野 清貴(商), 中村 英敏(商)ほか	編著 執筆	財務報告における公正価値測定	中央経済社	2014.8	中央書庫 / 開架	336.9/Ki68
小島 武司(名), 猪股 孝史(法)	著	仲裁法	日本評論社	2014.9	中央書庫 / 開架	327.5/Ko39
小林 道正(名)	著	ファイナンスと確率	朝倉書店	2014.10	開架 / 理開	338.01/Ko12
小林 道正(名)	著	経済・経営のための数学教室：経済学入門	裳華房	2014.11	開架 / 理開	331.19/Ko12
酒井 克彦(商)	著	プログレッシブ税務会計論：「公正処理基準」の考え方	中央経済社	2014.9	中央書庫 / 開架	336.98/Sa29
酒井 克彦(商)	著	クローズアップ課税要件事実論：要件事実と主張・立証責任を理解する 第3版	財経詳報社	2014.10	開架 / 市ヶ谷法務	345.19/Sa29
佐藤 博樹(戦略), 矢島 洋子	著	介護離職から社員を守る：ワーク・ライフ・バランスの新課題	労働調査会	2014.11	開架 / 戦略経営	336.4/Sa85
佐藤 元英(文), 滝田 賢治(法) 村岡 正俊(経), 長谷川 聡哲(経), 武山 興行(名), 深町 英夫(経), 奥山 修平(法), 西海 真樹(法), 細野 助博(総)ほか	編著 執筆	3・11 複合災害と日本の課題	中央大学出版部	2014.11	開架	369.31/Sa85
清水 元(法務)	著	債権各論 2 (プログレッシブ民法)	成文堂	2015.2	中央書庫 / 開架	324.5/Sh49
鈴木 直志(文)	著	広義の軍事史と近世ドイツ：集権のアリстокラシー、近代転換期	彩流社	2014.5	中央書庫 / 西洋史	234.05/Su96
鈴木 俊幸(文)	編	書籍文化史 16	鈴木俊幸	2015.1	中央書庫 / 国文	023.1/Su96
角田 邦重(名)	著	労働者人格権の法理(中央大学学術図書 86)	中央大学出版部	2014.10	中央書庫 / 理工	366.14/Su58
高橋 宏志(法務)	著	重点講義民事訴訟法 下 第2版補訂版	有斐閣	2014.9	中央書庫 / 開架	327.2/Ta33
田中 素香(経)ほか	著	現代ヨーロッパ経済 第4版(有斐閣アルマ Specialized)	有斐閣	2014.11	中央書庫 / 開架	332.3/Ta84
田中 洋(戦略) 松下 光司(戦略)ほか	編 執筆	ブランド戦略全書	有斐閣	2014.11	開架 / 戦略経営	675.2/Ta84
R. ハーストハウス 土橋 茂樹(文)	著 訳	徳倫理学について	知泉書館	2014.10	中央書庫 / 哲学	150/H98
鶴田 満彦(名)	著	21世紀日本の経済と社会	桜井書店	2014.12	開架	332.106/Ts87
雷岡 幸雄(名)	著	税金を払わない巨大企業(文春新書 988)	文藝春秋	2014.9	開架新書	文春新書 / 988
岸井 大太郎, 鳥居 昭夫(経)	編	情報通信の規制と競争政策：市場支配力規制の国際比較	白桃書房	2014.9	中央書庫 / 田町文系	694.1/Ki57
久留島 典子, 長野 ひろ子(経), 長 志珠(経)	編	歴史を読み替えるジェンダーから見た日本史	大月書店	2015.1	中央書庫 / 開架	367.21/Ku79
古橋 エツ子, 床谷 文雄, 新田 秀樹(法)	編	家族法と社会保障法の交錯：本澤巳代子先生選集記念	信山社	2014.10	中央書庫 / 市ヶ谷法務	324.6/F93
高橋 滋 野口 貴公美(法)ほか	編著 著	行政法 visual materials	有斐閣	2014.12	開架 / 市ヶ谷法務	323.9/Ta33
野村 修也(法務), 奥山 健志	編著	平成26年改正会社法：改正の経緯とポイント	有斐閣	2014.11	開架 / 市ヶ谷法務	325.2/N95
橋本 基弘(法)	著	表現の自由理論と解釈(日本比較法研究所研究叢書 98)	中央大学出版部	2014.9	中央書庫 / 開架	316.1/H38
八田 幸二(経), 佐藤 拓也(経), 武田 勝(経)	著	攻略!! 日本経済 改訂版	学文社	2015.1	中央書庫 / 開架	332.106/H43
升田 純(法務)	著	自然災害・土壌汚染等と不動産取引：現代型リスクをめぐる判例	大成出版社	2014.9	中央書庫 / 市ヶ谷法務	676.9/Ma66
升田 純(法務)	著	最新PL 関係判例と実務 第3版	民法法研究会	2014.12	開架 / 市ヶ谷法務	324.55/Ma66
丸山 秀平(法務), 野村 修也(法務), 大杉 謙一(法務)ほか	著	ケースブック会社法 第5版(弘文堂ケースブックシリーズ)	弘文堂	2015.2	中央書庫 / 開架	325.2/Ma59
西永 良成, 三浦 信孝(名), 坂井 セシル 永見 文雄(文), 小野 潮(文)ほか	編 訳	日仏翻訳交流の過去と未来：来るべき文芸共共和国に向けて	大修館書店	2014.11	中央書庫	801.7/N85
伊藤 光利, 宮本 太郎(法)	編	民主党政権の挑戦と挫折：その経験から何を学ぶか	日本経済評論社	2014.8	中央書庫 / 開架	312.1/I89
宮本 太郎(法)	編著	地域包括ケアと生活保障の再編：新しい「支え合い」システムを創る	明石書店	2014.11	中央書庫 / 開架	369/Mi77
ジョン・クレア 森松 健介(名)	著 編訳	新選ジョン・クレア詩集	音羽書房鶴見書店	2014.12	開架	931/C76
矢内 一好(商)	著	英国税務会計史	中央大学出版部	2014.9	中央書庫 / 開架	336.98/Y54
山口 真美(文)	著	顔を忘れるフツツの人、瞬時に覚える一流の人：「読顔術」で心を見抜く(中公新書ラクレ 515)	中央公論新社	2015.1	開架	141.5/Y24
山田 省三(法務), 川田 知子(法)ほか	著	よくわかる! 労働判例ポイント解説集	労働開発研究会	2014.12	開架 / 市ヶ谷法務	366.18/Y19
結城 祥(商)	著	マーケティング・チャンネル管理と組織成果	千倉書房	2014.9	中央書庫 / 開架	675.2/Y97
横倉 弘行(名)	著	7つの経済理論についてのナイーブなアプローチ	窓社	2014.11	中央書庫	331.19/Y76
日本軍「慰安婦」問題 web サイト制作委員会 吉見 義明(商)ほか	編 責任編集	「慰安婦」・強制・性奴隷：あなたの疑問に答えます：Q&A (Fight for Justice ブックレット)	御茶の水書房	2014.10	開架	210.7/N77

* (法)：法学部、(経)：経済学部、(商)：商学部、(文)：文学部、(総)：総合政策学部、(理)：理工学部、(法務)：法務研究科、(会計)：国際会計研究科、(戦略)：戦略経営研究科、(研)：研究開発機構、(名)：名誉教授

* 配架場所は2ヶ所までとした